

授業科目名	判例講読 履修クラス：B	期別	前期	授業形態	演習
担当者名	山下 義昭	単位数	1	開講年次	1

授業科目の概要		
事前に配付する主として憲法問題が争点になっている判例をゼミ形式で、詳細に検討する。じっくり議論しながら検討するので一つの判例を検討するのに授業2回をあてることにしている。		
到達目標		
判例の構造を理解することにより、判例を論理的に正確に読むことができるようになる。		
成績評価基準および方法		
事前に配布する判例をどの程度読んで問題点を把握してきたかなどの予習の程度（25%）、授業での発言の積極性・適切性（50%）、判例の理解の程度（25%）を総合的に評価して行う。		
テキストおよび参考文献		
配布資料（憲法関連の判例）をテキストとして用いる。		
履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）		
事前に配付する資料（判決原文等）を最低2回は読んで、意味がよく分からない箇所をチェックしておくこと。復習は可能な限り授業当日に行うこと。予習時間の目安は2時間程度、復習時間は1時間程度。		
授業計画および内容等		
第1回	青少年保護と表現の自由(1)	最判平元9. 19（刑集43巻8号785頁）
第2回	青少年保護と表現の自由(2)	同上
第3回	名誉毀損と表現の自由(1)	最判昭44. 6. 25（判時559号25頁）
第4回	名誉毀損と表現の自由(2)	同上
第5回	名誉毀損と事前差止め(1)	最判昭61. 6. 11（民集40巻4号872頁）
第6回	名誉毀損と事前差止め(2)	同上
第7回	モデル小説とプライバシー(1)	最判平14. 9. 24（判時1802号60頁）
第8回	モデル小説とプライバシー(2)	同上
関連 URL		
備考欄		